

水資源投入量及びその低減対策

漏水などの防止に取り組みました。

水資源投入量6%の減少（前年比）

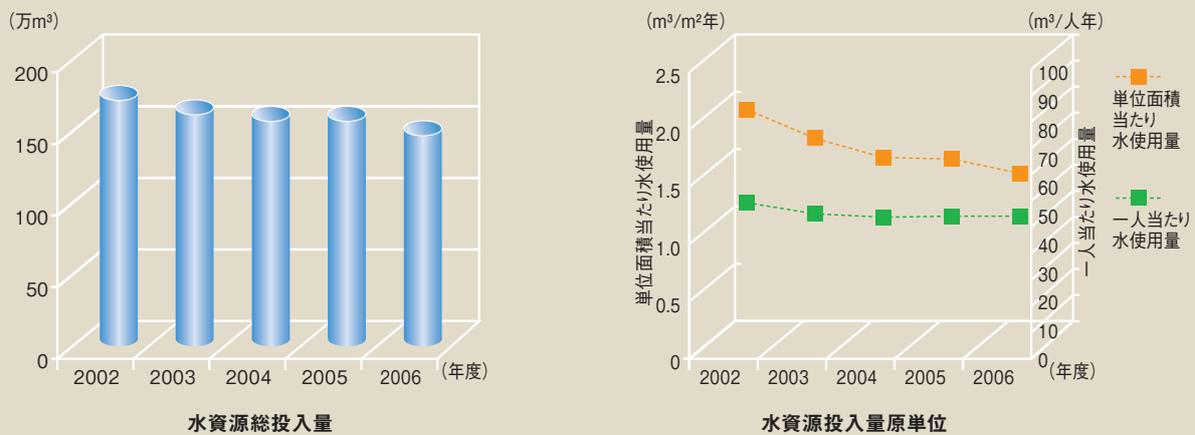


図 23 京都大学の水資源投入量

2006年度、京都大学では、年間約150万m³の水を使用しました。構成員一人が毎日130L（2Lペットボトル65本）の水を使用していることになります。実験機器などの節水が進んだため、近年では減少傾向にあります。

水使用量の適正管理のためには、個人の節水の心がけも重要ですが、大量に水を使う設備や配管での漏水を防ぐことが重要です。そこで、単位面積当たり使用量を同種の建物と比較し、異常が見られる建物を集中的に調査することから、無用な水使用の把握に努めました。ここではその一例を紹介します。

過去の記録をたぐっていくと、物理系の実験を主に行っている建物が間もなく浮かび上がりました。この種の建物は通常は水使用量がとりたてて多いということはないはずなので

すが、この建物の単位面積当たり水使用量は京大平均（1.5m³/m²）の4倍にもなる6m³/m²に達していました。

そこでこの建物に調査に入り、すべての水栓を調査しました。

その結果、かつて実験機器用に設置された給水管が、機器がなくなった後もバルブが開放されたまま長期間放置されて、水が流しっ放しになっていたのを発見しました。

給水管が床下の排水ピットまでコンクリートに埋め込まれて配管されていたため、水が流れていることを目視で確認できる部分がなく、関係者も

気がつきませんでした。

この給水管に接続するバルブを閉めることで、この建物の水使用量は、それまでに比べて年間1万7000m³、およそ35%減らすことに成功しています。